



株式会社アインファーマシズ

AIN PHARMACIEZ

第 3 8 期 株 主 通 信

平成18年5月1日～平成19年4月30日

Financial Report

あなたの元気に一生懸命でいたい。

アイングループ

380店舗

全国に広がるネットワーク



ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は、当社に温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第38期（平成18年5月1日から平成19年4月30日まで）の決算が終了いたしましたので、ここに事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社は、平成14年11月に今川薬品と合併して以来、積極的にM&Aを推し進めてまいりました。この2年の間にも株式会社リジョイス、株式会社リジョイス薬局、株式会社メディカルハートランド、株式会社ダイチクをグループ会社に迎えました。さらに今年6月には株式会社あさひ調剤が当社グループに加わり、来期の業績予想では調剤薬局業界初となる売上高1,000億円に到達いたします。

これをステップに、さらなる企業規模の拡大を図り、当社グループ一丸となって企業価値の向上に努めてまいる所存でございますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 **大谷 喜一**

Q | 今期の業績はいかがでしたか。

**医** 薬事業におきましては、昨年4月の調剤報酬改定により、平均6.7%ダウンとなる薬価改定に加え、調剤技術料においても2.7%のマイナスとなりました。この影響を補うため、調剤業務の効率化とともに新規出店及びM&Aによる規模拡大を図ってまいりました。

特にM&Aにつきましては、今年1月、新潟県に18店舗の調剤薬局を展開する株式会社ダイチクが新たに当社グループに加わりました。株式会社ダイチクは新潟県内でNo.1のシェアを占める企業であり、これにより当社グループの新潟地区における営業基盤を強化いたしました。

物販事業におきましては都市型ドラッグストア「アインズ&トルベ」を、コスメティックのセレクトショップというコンセプトのもと出店・改装を行い、他のドラッグストアとの差別化を図ってまいりました。また、不採算店3店舗を閉店し、来期以降黒字に転換できる準備を整えてまいりました。

以上により、当社グループの業績は売上高813億7百万円（前期比6.6%増）と7年連続の増収となりましたが、経常利益は28億3千3百万円（同5.9%減）となりました。当期純利益は減損損失及び過年度法人税、住民税及び事業税等の影響により10億1千万円（同16.9%減）となりました。

Q | 医薬事業の展開についてどのようにお考えですか。

**当** 社グループでは、積極的な新規出店とM&Aによる事業規模の拡大を基本方針としておりますが、今年に入って行ったM&Aにより、医薬事業部門のみでの売上高1,000億円が見えてきました。新規出店に関しても5月に店舗開発室を新設するなど営業部門の強化を図っております。今後も、調剤薬局業界のリーディングカンパニーとして圧倒的なシェアを築くため、さらなる規模拡大を目指してまいります。

また、調剤薬局事業においてもっとも重要なことは安全です。当社グループはこれまで教育研修に力を入れ、調剤過誤防止システムの開発に多額の投資をしてまいりました。そのうちの1つであるPhAIN System\*（ファインシステム）が昨年より全店に配備され、調剤過誤数はほぼゼロに近づいております。その他IT技術も導入しており、安全性と効率性両方の向上を図っております。

さらに、ジェネリック医薬品の卸会社である株式会社ホールセールスターズの活動も本格的になってきました。当社グループはもとより、同業他チェーン店への販売を行っております。今後、厚生労働省によるジェネリック医薬品の普及促進は、ますます進むことが確実であり、当社グループにとって重要な位置づけになるものと期待しております。

\* PDA (Personal Digital Assistance) など最新の機器を装備した調剤過誤防止システムの総称

Q 物販事業の展開について  
どのようにお考えですか。

**物**販事業は、都市型ドラッグストア「アインズ&トルペ」を中心とした展開を進めておりますが、出店立地が都市の中心部に100~200坪程度の広さを必要としており、好条件の出店候補物件はそう多くありません。そのため「アインズ&トルペ」としての今期出店数は2店舗にとどまりました。

そこで来期は、「アインズ&トルペ」の洗練された店舗デザインはそのままに、化粧品だけを扱う「トルペ」という新しい業態での店舗展開を考えております。「トルペ」の場合、店舗面積は50~80坪程度で展開できるため、これまでよりもスピーディーな出店活動を行うことができるのではないかと期待しております。

また、「アインズ&トルペ」においても、これまではお客様に自由にお買い物をしていただくセルフの要素が強かったのですが、新たにカウンセリングカウンターを設置し、スタッフが専門的なカウンセリングを行えるようにするなど、お客様のニーズに応えられる店づくり、より質の高いサービスを提供できるプロフェッショナルな人材の育成に取り組んでまいります。

Q M&Aについてどのように  
お考えですか。

**今**年に入って、1月には株式会社ダイチク、6月には株式会社あさひ調剤と既に2件の買収を行いました。先にも触れましたように、株式会社ダイチクは大型の門前薬局を中心とした新潟県No.1シェアを誇る会社であり、株式会社あさひ調剤においても、埼玉県を中心に調剤薬局86店舗を展開する、いずれも優良企業です。

医薬分業率が6割程度まで高まり、市場がなおも成長しているなかで、既に他社が一番立地に出店してしまっているというケースも少なくありません。調剤薬局にとって、特に当社のような門前型店舗では立地が絶対条件です。ですから、事業規模の拡大を図るためには、営業開発による新規出店のみならず、M&Aも重要な手法の一つです。

医療業界においても製薬メーカーや卸の再編が進んでおりますが、調剤薬局業界でもそういった動きが活発化しております。

今後もこのような大型のM&A案件が増えてくると思いますが、当社グループでは慎重に検討し、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

## Q 来期の業績について お聞かせください。

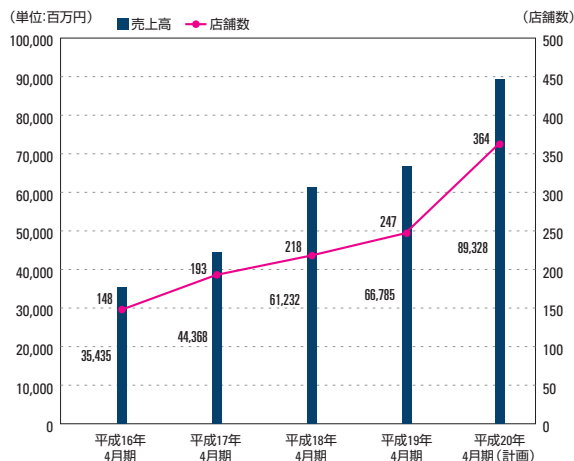
来期においては、株式会社ダイチクの業績が通期にわたって反映されます。また、株式会社あさひ調剤がグループ会社に加わることにより、売上高1,052億6千万円（対前年比29.5%増）、経常利益42億5千万円（同50.0%増）、当期純利益18億5千万円（同83.1%増）、1株当たり当期純利益は163円43銭（同58.4%増）と売上、利益ともに過去最高を大幅に更新する見通しとなっております。

剰余金の配当につきましては、今期は前期同様に1株当たり18円ですが、来期はこの業績予想を織り込み1株当たり2円増配の20円を予定しております。

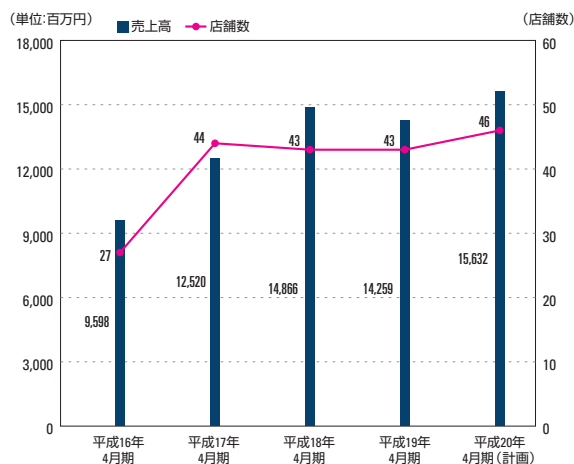
物販事業においては、既に不採算店舗の整理を終えており、「アインズ&トルペ」に加えて新業態「トルペ」の展開を開始することによって黒字転換できる体制が整いました。

また、医薬事業におきましても新規出店の加速とともに調剤業務の機械化・システム化によるさらなる効率化を進めております。調剤薬局業界初の売上高1,000億円超という予算を確実に達成し、皆様のご期待に応えられるよう努力してまいります。

### 医薬事業売上高・店舗数の推移



### 物販事業売上高・店舗数の推移



## 医薬事業 pharmacy



当社グループは、積極的な新規出店とM&Aを行うことにより、スケールメリットを活かした事業展開を行うとともに、安全性・効率性向上のため、調剤業務の機械化・システム化を進めております。今期はPhAIN Systemに加え、OCR（光学式文字認識装置）による処方箋読み取りシステムを実用化しました。さらに、当社グループ独自の薬局管理システムAIMS（エイムズ：AIN Information Management System）等IT技術との連動により、調剤過誤の未然防止とともに、全店舗のコスト管理を行い、在庫削減等の効果を実現しております。

当連結会計年度は、株式会社ダイチクを新たにグループ会社に加え、また14店舗の新規出店を行い、当社グループにおける稼動調剤薬局数は247店舗となりました。その結果、売上高は667億8千5百万円（前期比9.1%増）となりましたが、薬価及び調剤報酬改定等の影響により、営業利益は40億8千1百万円（同3.5%減）となりました。

## topics

昨年4月の医療改定において、処方箋に「後発品（ジェネリック医薬品）への変更可」という欄が追加され、本格的なジェネリック医薬品の普及促進が始まりました。

現在、日本ではジェネリック医薬品の普及率が16%程度にとどまり、欧米の4～5割の普及率に比べ著しく遅れている状況です。

厚生労働省では、増え続ける薬剤費を抑制するため、先発医薬品の4～7割程度の価格であるジェネリック医薬品の普及加速に本格的に着手し、ジェネリック医薬品を公的医療保険適用の「標準」とする検討に入り、2008年度からの実施を目指しています。

当社としても、昨年より薬局内においてジェネリック医薬品に関する映像を放映し、患者さまに対して積極的に説明を行うなど使用促進に努め、また、ジェネリック医薬品をフルラインで取り扱う専門卸として株式会社ホールセールスターズを当社全額出資で設立するなど、グループ全体で同薬品の普及拡大に取り組んでいます。



アイン薬局沖縄知花店

## Expansion of the safety

### 医療過誤ゼロ社会の実現に向けて

調剤薬局のリーディングカンパニーとしての責任と使命。

私たちは、安全に薬をお届けするため、長年調剤過誤防止に対して、真剣に取り組んできました。

いま、その「想い」は「かたち」となり、医療業界全体に広がっています。

#### 薬の取り違いを画面と音で警告

##### PDA（携帯情報端末）

株式会社トーショーとの共同開発によるPDAを利用した調剤過誤防止システム「PhAIN System」は当社において最も重要な調剤機器の1つです。



その効果は広く認められ、全国の病院・調剤薬局等に導入されています。

#### 調剤薬局業界全体の発展を願って

##### 調剤薬局運営パーフェクトマニュアル

当社が調剤薬局事業を始めてからこれまでに培ったノウハウをまとめました。自社だけではなく調剤薬局業界全体の発展と安全を願い、アインファーマシーズが試行錯誤の末にたどり着いた最善と思われる方法を紹介しています。

調剤過誤防止のための「安全性」追求をベースに、薬局管理やサービス向上についてまとめたマニュアルとして、株式会社日経BP社より発刊されています。



#### 入力ミスによる調剤過誤を防止

##### 処方箋読み取りシステム

処方箋をスキャナーで自動認識して、入力時のミス防止と待ち時間の軽減を同時に実現する処方箋読み取りシステムを実用化しました。順次、店舗導入を進め



ているところですが、これまで以上に安全性と患者さまに対するきめ細かなサービスの提供が可能になりました。

#### 産学協同による取り組み

##### 国立大学への寄附講座

社会貢献事業の一環として東京大学医科学研究所に「探索医療ヒューマンネットワークシステム寄付研究部門」、北海道大学大学院薬学研究院薬学部門に「医薬品リスク管理学」を寄附講座として開講しています。

当社は、産学一体となって医療の発展に寄与したく、研究者の育成を支援しております。



## 物販事業

drugstore



物販事業では、「アインズ&トルペ」を中心とした出店及び既存店改装を行い、「コスメティックのセレクトショップ」というコンセプトのもと、新MDによる展開、カウンセリングカウンターの設置をはじめ、他のドラッグストアチェーンとの差別化を図っています。

今期は、東北初進出となる「アインズ&トルペ仙台駅前店」を今年2月にオープンいたしました。その他、昨年6月に「アインズ&トルペ カテプリ新さっぽろ店」を、10月にはアインズの形態で「アインズ ダイエー栄町店」をオープンし、3店舗の新規出店を行いました。これにより直営店舗総数は30店舗となり、連結子会社である株式会社アイン東海の13店舗を加えた当社グループの店舗総数は43店舗となりました。売上高は142億5千9百万円（前期比4.1%減）、中間期までに閉店した営業不振店舗の影響により営業損失2億6千万円（同9百万円の改善）となりました。

## topics

昨年6月にオープンした「アインズ&トルペ カテプリ新さっぽろ店」は、従来の幅広い品揃えから自由にお客さまが選ぶセルフタイプ型店舗に、スキンケア等のカウンセリングカウンターを設ける新たな試みが加わりました。

この新しい試みは、お客さまの“きれい”に関するさまざまなご要望をサポートするものとして「アインズ&トルペ仙台駅前店」をはじめ、以降の新店の標準となり、他の「アインズ&トルペ」にも同様のコンセプトによる改装を進めています。

このほか新しい「アインズ&トルペ」では、海外ブランドの化粧品や輸入菓子など人気素材の導入を拡大し、バラエティショップの楽しさとデパートの化粧品コーナーのようなゆとりの要素の融合を目指しています。

「アインズ&トルペ」は、これからも「コスメティックのセレクトショップ」として最新のトレンドを発信していきます。



アインズ&トルペ仙台駅前店





## Original Style

コスメティックショップの新しいカタチ



きもち・からだ・きれい

Face

Body

Heart

**Total  
Beauty**



ドラッグ&コスメティック「アインズ&トルペ」の“きれい”のエッセンスとノウハウを集約した、新しいスタイルのトータルビューティショップ「トルペ」が近日中に誕生します。

“きれい”をもっと身近に。

「トルペ」は、「アインズ&トルペ」の自由に選べる広い空間から、“きれい”をより専門的に、きめ細かく提案できる新たな空間で展開します。

「トルペ」は、国内外のスキンケア、メイクアップなどコスメティックやボディケアを中心に、最新のトレンドと、上質なカウンセリングで、お客さま一人ひとりの“きれい”をサポートする新しいトータルビューティショップを目指します。

「アインズ&トルペ」と「トルペ」。私たちは進化を続けます。



## 「純資産の部」の新設

貸借対照表は、財務諸表等規則の改正（平成18年5月1日の会社法施行に伴うもの）により、「資本の部」が廃止され、「純資産の部」が新設されました。資産性を持つものを「資産の部」、負債性を持つものを「負債の部」に記載し、それらに該当しないものを「純資産の部」に記載しています。

## 「株主資本等変動計算書」の新設

財務諸表等規則の改正（平成18年5月1日の会社法施行に伴うもの）により、「剰余金計算書」にかえて、「株主資本等変動計算書」が新設されました。貸借対照表の「純資産の部」の中で、主として株主の皆様に帰属する株主資本について、1会計期間における変動の事由と金額を記載するものです。

## ■ 貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 (平成18年4月30日現在)	当連結会計年度 (平成19年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	18,216	21,251
固定資産	23,452	28,597
有形固定資産	8,330	9,788
無形固定資産	6,230	9,923
投資その他の資産	8,891	8,885
資産合計	41,669	49,849
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	23,849	31,428
固定負債	6,985	7,094
負債合計	30,835	38,522
<b>(少数株主持分)</b>		
少数株主持分	482	—
<b>(資本の部)</b>		
資本金	3,384	—
資本剰余金	3,504	—
利益剰余金	3,143	—
その他有価証券評価差額金	324	—
自己株式	△3	—
資本合計	10,352	—
負債、少数株主持分及び資本合計	41,669	—
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	—	10,722
資本金	—	3,395
資本剰余金	—	3,515
利益剰余金	—	3,815
自己株式	—	△3
評価・換算差額等	—	△11
その他有価証券評価差額金	—	△11
少数株主持分	—	615
純資産合計	—	11,326
負債純資産合計	—	49,849

## ■ 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)
売 上 高	76,303	81,307
売 上 原 価	66,074	70,448
売 上 総 利 益	10,228	10,858
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	7,145	7,970
営 業 利 益	3,083	2,888
営 業 外 収 益	184	267
営 業 外 費 用	256	322
経 常 利 益	3,012	2,833
特 別 利 益	352	448
特 別 損 失	710	540
税金等調整前当期純利益	2,653	2,741
法人税、住民税及び事業税	1,320	1,342
過年度法人税、住民税及び事業税	—	127
法人税等調整額	△ 57	153
少数株主利益	174	108
当 期 純 利 益	1,215	1,010

## ■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)	当連結会計年度 (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,623	2,277
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,351	△ 6,676
財務活動によるキャッシュ・フロー	664	5,437
現金及び現金同等物の増減額	△ 64	1,038
現金及び現金同等物の期首残高	3,132	3,068
新規連結子会社の現金及び現金同等物の増加高	—	74
現金及び現金同等物の期末残高	3,068	4,180

## ■ 株主資本等変動計算書

当連結会計年度（平成18年5月1日から平成19年4月30日まで）

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
平成18年4月30日 残高	3,384	3,504	3,143	△ 3	10,028	324	324	482	10,834
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	11	11			22				22
剰余金の配当			△ 203		△ 203				△ 203
役員賞与			△ 34		△ 34				△ 34
当期純利益			1,010		1,010				1,010
新規連結子会社による変動額			△ 100		△ 100				△ 100
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					—	△ 336	△ 336	133	△ 202
連結会計年度中の変動額合計	11	11	672	—	694	△ 336	△ 336	133	491
平成19年4月30日 残高	3,395	3,515	3,815	△ 3	10,722	△ 11	△ 11	615	11,326

■ 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	第37期 (平成18年4月30日現在)	第38期(当期) (平成19年4月30日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	11,634	11,537
固定資産	20,819	26,735
有形固定資産	5,591	5,827
無形固定資産	297	431
投資その他の資産	14,930	20,476
資産合計	32,454	38,273
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	16,381	22,433
固定負債	6,045	5,817
負債合計	22,426	28,251
<b>(資本の部)</b>		
資本金	3,384	—
資本剰余金	3,504	—
利益剰余金	2,817	—
その他の有価証券評価差額	324	—
自己株式	△3	—
負債・資本合計	10,027	—
負債・資本合計	32,454	—
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	—	10,032
資本剰余金	—	3,395
利益剰余金	—	3,515
その他の有価証券評価差額	—	3,125
自己株式	—	△3
純資産合計	—	△11
純資産合計	—	△11
純資産合計	—	10,021
純資産合計	—	38,273

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第37期 (平成17年5月1日から 平成18年4月30日まで)	第38期(当期) (平成18年5月1日から 平成19年4月30日まで)
売上高	51,123	51,262
売上原価	43,654	44,265
売上総利益	7,468	6,996
販売費及び一般管理費	5,493	5,571
営業利益	1,975	1,425
営業外収益	175	239
営業外費用	191	242
経常利益	1,959	1,422
特別利益	281	406
特別損失	536	412
税引前当期純利益	1,704	1,416
法人税、住民税及び事業税	876	535
過年度法人税、住民税及び事業税	—	127
法人税等調整額	△96	208
当期純利益	924	544
前期繰越利益	1,093	—
当期末処分利益	2,017	—

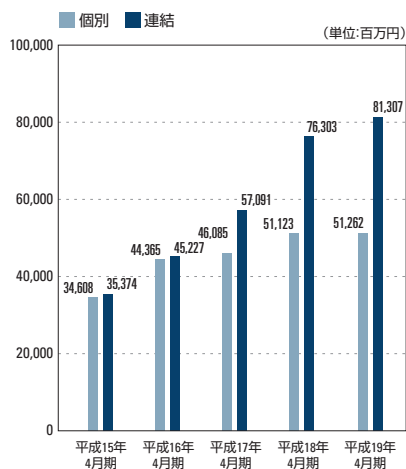
■ 株主資本等変動計算書

第38期(当期) (平成18年5月1日から平成19年4月30日まで)

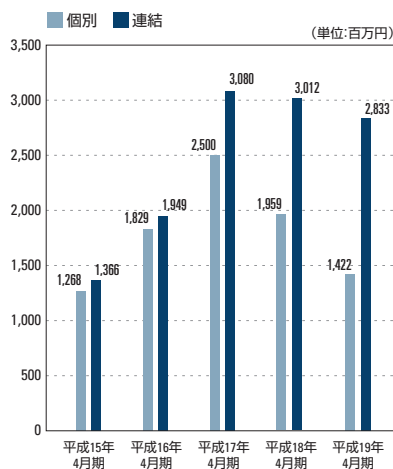
(単位：百万円)

	株主資本							評価・換算差額等		純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 別途積立金	利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計					
平成18年4月30日 残高	3,384	2,504	1,000	3,504	800	2,017	2,817	△3	9,702	324	324	10,027
事業年度中の変動額												
新株の発行	11	11		11					22			22
別途積立金の積立て					200	△200	—		—			—
剰余金の配当						△203	△203		△203			△203
利益処分による役員賞与						△34	△34		△34			△34
当期純利益						544	544		544			544
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)									—	△335	△335	△335
事業年度中の変動額合計	11	11	—	11	200	107	307	—	329	△335	△335	△6
平成19年4月30日 残高	3,395	2,515	1,000	3,515	1,000	2,125	3,125	△3	10,032	△11	△11	10,021

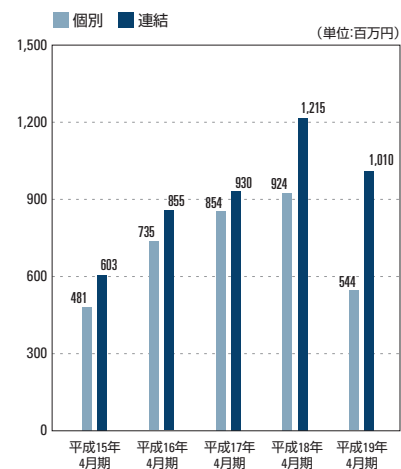
### 売上高



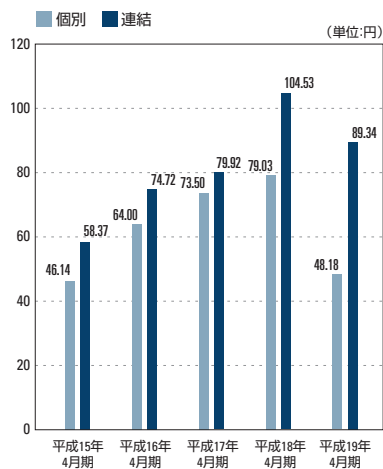
### 経常利益



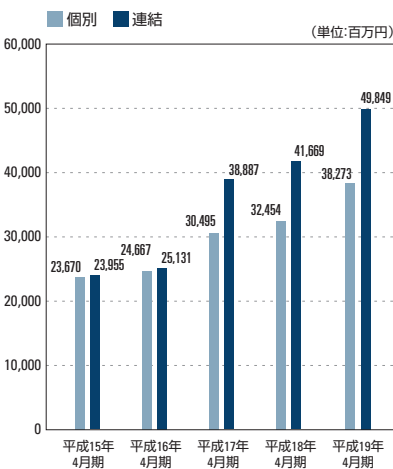
### 当期純利益



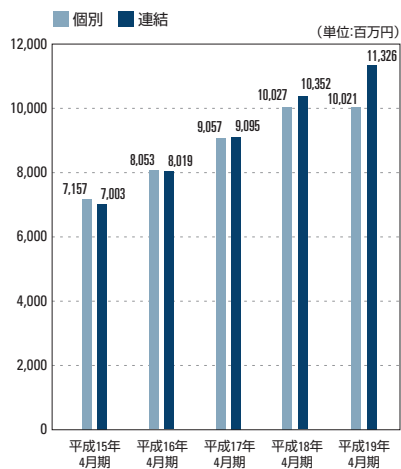
### 1株当たり当期純利益



### 総資産



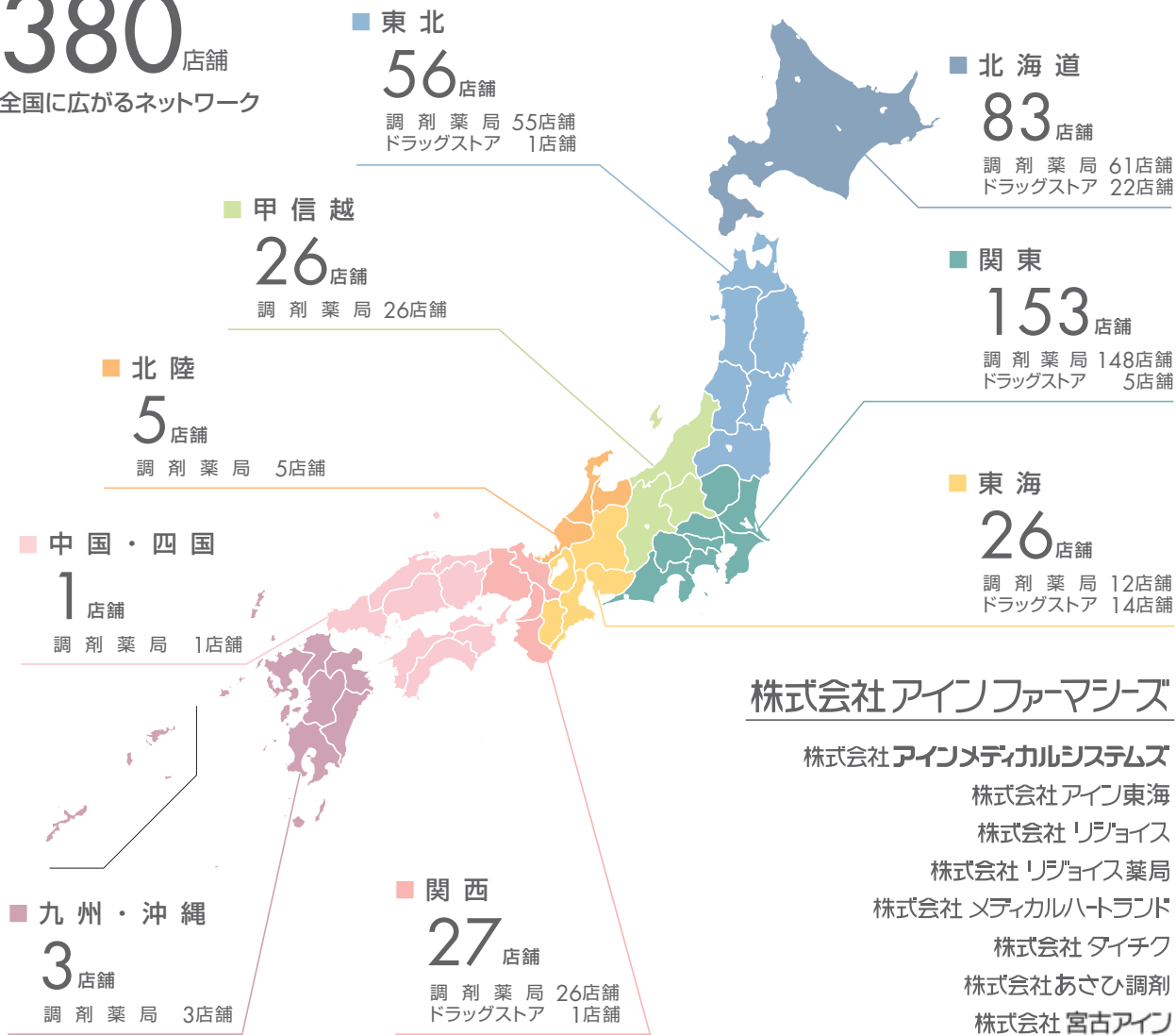
### 純資産



アイングループ

**380** 店舗

全国に広がるネットワーク



## 株式会社アインファーマシーズ

株式会社アインメディカルシステムズ

株式会社アイン東海

株式会社リゾョイス

株式会社リゾョイス薬局

株式会社メディカルハートランド

株式会社タイチク

株式会社あさひ調剤

株式会社宮古アイン

商 号	株式会社インファーマシーズ
本 社	札幌市東区東苗穂5条1丁目2番1号 TEL (011) 783-0189 (代表)
設 立	昭和44年8月
資 本 金	33億9,564万円 (2007年4月30日現在)
従 業 員	1,947名(連結) 1,057名(単体)
事 業 内 容	・調剤薬局チェーン アイン薬局 今川薬局 ・ドラッグストアチェーン アインズ アインズ&トルペ

役員構成	代表取締役会長	今川美明
	代表取締役社長	大谷喜一
	代表取締役副社長	南雲正
	専務取締役	加藤博美
	専務取締役	川井淳一
	常務取締役	首藤正一
	常務取締役	水島利英
	常務取締役	須崎道男
	取締役	平田靖史
	取締役	三上弘
	取締役	土居由有子
	取締役	佐藤譲治
	取締役	水野勝
	常勤監査役	高橋一俊
	監査役	井須孝誠
	監査役	石橋雄哉
	監査役	杉本和紀

(2007年7月30日現在)

## 株式の状況 (2007年4月30日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,322,456株
(注) 第1回新株引受権及び第2回新株引受権並びに新株予約権の行使により発行済株式の総数は16,000株増加いたしました。	
株主数	2,187名

### 大株主 (上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率
大 谷 喜 一	1,894	16.73
丸 紅 株 式 会 社	1,490	13.16
今 川 美 明	1,240	10.96
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	870	7.68
株式会社北海道銀行	546	4.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	422	3.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	361	3.19
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムロアカウント	223	1.97
杏林製薬株式会社	200	1.77
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505019	195	1.73

(注) 出資比率は自己株式(2,456株)を控除して計算しております。

## 株 主 メ モ

---

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
定時株主総会	毎年7月
基準日	毎年4月30日 その他、必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
（郵便物送付先） （電話お問合せ）	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324（フリーダイヤル）
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公 告 方 法	電子公告により行います。（ <a href="http://www.ainj.co.jp/">http://www.ainj.co.jp/</a> ） ただし電子公告によることができない事由、その他やむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。